

Rotary



ロータリーは世界をつなぐ

2019～2020年度 マーク・ダニエル・マローニー 会長テーマ

WEEKLY BULLETIN

2019年10月24日(3338例会)(創立68周年) 呉ロータリークラブ週報 NO.3252

■呉RC 2019～2020年度テーマ 「語り合いから始まるクラブの絆」

会 長 志々田 幸治
副 会 長 山 村 貞 夫 幹 事 大 塩 俊 会長エレクト 長 尾 正 嗣
直前会長 森 澤 大 司 会 計 天 野 成 幸 会場監督 坂 田 健 治

(事務局) 〒737-0045 呉市本通4丁目8-12 (例会場) 〒737-0051 呉市中央1丁目1-1 呉阪急ホテル
呉商工会議所ビル南館7階 705号室 ☎(0823)20-1111 FAX(0823)20-1120
☎(0823)24-4411 FAX(0823)21-5692 (例会日時) 毎週木曜日 12:30～13:30
E-mail▶kure3rc@urban.ne.jp HP/URL▶http://www.kurerotaryclub.jp My Rotary▶https://my.rotary.org/ja/user

今週のメインプログラム

故武田正視会員 追悼例会

次週のメインプログラム

職業奉仕委員会 担当例会

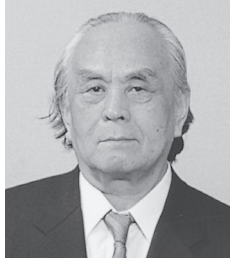
第3337例会記録【10月10日(木)】

- 【プログラム】 ◇米山記念奨学会委員会 担当例会
2019 学年度米山奨学生 周 心慧様
- 【出席率】 前々回 92.31% 今回 77.27% (会員 72 名・欠席 15 名・免除 6 名)
- 【来客】 ◇2019 学年度米山奨学生 周 心慧様
◇大之木精二・稲葉周三君のご同伴者 武田製網株式会社 代表取締役社長 武田保介様
- 【他クラブ出席者】 ◇奥原・志々田・松浦君 (10/5 呉 RAC) 神田 (健)・中河原・清宗・沖田・松浦・奥原・志々田・山村・山本君 (10/5 国際奉仕 ポットラックカフェ) 大之木 (精) 君 (10/5 第 12 期 RLI-2710 第 1 回タスクフォース会議) 海生 (知) 君 (10/9 北海道 2500 ロータリー E クラブ) 14 名
- 【欠席者】 ◇青山・井上・畦・大上・大村・奥原・神垣・島村・下瀬・谷口・長行事・中野・向井・山村・寺坂君 15 名
- 【出席免除者】 ◇大矢・奥川・尾田・海生 (孝)・梶山・武田 (信) 君 6 名
- 【会長報告】 ◇入会式…東洋証券株式会社 呉支店長 檜和田浩昭様 (推薦者 大之木精二君 宇都宮五郎君)
◇指名委員会の件報告
堀口勝哉君、畦 淳造君、仮井康裕君、長行事義人君、坂田健治君、森澤大司君、志々田幸治君の 7 名を委員として指名しました。
◇幹事の大塩さんの娘さんが結婚されました。お祝いをお渡しします。
- 【幹事報告】 ◇RI 第 2710 地区晝田ガバナー…ガバナー月信 10 月号 (配布)
◇公益財団法人ロータリー米山記念奨学会…2019-20 年度 豆辞典 (配布)
◇RI 第 2710 地区大会事務局…RI2019-20 年度地区大会のご案内を参加者へ配布。
◇広島中央ロータリークラブ…創立 41 年記念夜間例会・懇親会の為、11/25(月)18:30～グランドプリンスホテル広島へ変更 (回覧)
◇来週は休会となります、次回例会は 10 月 24 日(木)武田正視さんの追悼例会となります。
- 【委員会報告】 ◇社会奉仕委員会 住田佳樹委員長…ロータリーの友 10 月号のご紹介
◇親睦活動委員会 高橋征司委員長…地区大会のバスのご案内 (関係者配布)
◇国際奉仕委員会 神田健治委員長…10 月 5 日の例会の御礼 マレーシアの RC 訪問視察に際して来週くらいに締め切らせて頂きます。行こうと思われる方は事務局まで連絡ください。

【S.A.A】ニコニコ



- ◇大塩 俊君…バージンロードを歩いて来ました。気が抜けて当分やる気が起きません。
- ◇太刀掛祐之君…10/6 に賣茶流島村お家元のお点前により献茶会を行いました、美味しいお茶をお供えいただき、神様もお喜びです。おかげで台風もそれて、今週末のお祭りも無事斎行できそうです。
- ◇住田佳樹君…谷口さんの計らいで、チケットが入手できましたので、久しぶりに息子とサンフレッチェの試合を見に行きました。結果はインiesta ような神戸に 6-2 で圧勝。気持ちよく帰路につきましたが、何と帰りは大渋滞、中央公園でのスタジアム完成が待ち遠しいです。
- ◇日下美穂君…番組の組み立てに協力して、少しだけ出演もした NHK のガッテンが 9 月 25 日に放送されました。視聴率が 12.2% と高視聴率だったようで、少しでも減塩の普及につながったのではないかと喜んでおります。
- ◇宇都宮五郎君…10 月 7 日(月)初曾孫が生まれました。81 才でひい爺です。玄孫まで生きられるかな？
◎ニコニコ基金累計金額 564,000 円



敬 弔

故 武田 正視 君

2019年（令和元年）8月3日 ご逝去

1987年（昭和62年）8月27日 入会

弔 辞

呉ロータリークラブを代表して、故武田正視さんのご霊前に謹んでお別れの言葉を申し上げます。

武田先生、あなたの突然の悲報に接し、私たちは深い悲しみに包まれております。

先生は昭和62年に呉ロータリークラブに入会され、31年間在籍されました。

先生はとても博学で、また侘び寂びの日本の心をお持ちの方でした。

先生からお聞きする歴史の話は、時代を生きた人達がどんな思いで何に真剣に取り組んだか、国の政策でどれほど民衆が苦勞したかなど、人の気持ちまでも聞き取れるような話でとても印象的でした。私も原爆により消失した広島町と史跡の中に、明治維新の広島藩の功績や生きた証が記されたものが残っていると、今までに聞いたことのない本を頂戴して、読みふけたことを思い出します。

また一方、委員会などでご一緒したときには、先生のお考えをざっくばらんにお話し頂き、私たちの心を和らげてくださいました。

歴史同好会では奥様と参加され、ガイドさんの知らないことまでお話いただきましたね。

「みちのくの旅」から帰って先生が書かれた旅のレビューの中の「旅は出会いと別れの場なのである。一期一会を思わざるを得ない」という言葉が思い出されます。

自分に厳しく人にやさしい先生は、「古き良き日本人の情感と分別」という大切なものを教えてくださいました。ロータリークラブの会員の心に残って離れないものです。

武田先生の在りし日の面影が鮮明に浮かんで参ります。どうか安らかに眠り下さい。

先生が私たちに示してくださったすべてのことに感謝し、先生がこよなく愛されたご遺族と呉ロータリークラブをお見守り下さいますよう心からお願い申し上げ、お別れの言葉とさせていただきます。

合 掌

令和1年10月24日

呉ロータリークラブ

2019～'20年度会長 志々田幸治

武田正視さんを悼む

広報・クラブ週報委員会

武田正視さんが8月3日、92歳で逝去されました。1987年（昭和62年）の入会以来、呉ロータリークラブの精神的支柱として重きをなし、歴史同好会などの活動や週報の執筆を通じた造詣の深さにより、私たちに感銘を与えていただきました。ご冥福を祈り、今週報を追悼号として捧げたいと思います。



2019年5月
レジェンドセミナーにて

【武田正視さんの生涯】

武田正視さんは大正15年8月15日に呉市に生まれました。名前を「ただみ」と読むのは、眼が不自由だった父上が、わが子が健常であることを願った命名でした。ご自宅はお父上が歯科医院を開業しておられ、呉一中から父の母校、大阪歯科医学専門学校に入学。さらに戦後は京都大学で口腔外科を学び、助手を経て呉に戻られました。蒲刈病院勤務を経て、昭和37年に武田歯科医院に2代目として入られ、地域に欠かせない歯科医として、多くの人たちの信頼を集められました。

歴史研究に携わったのは家族の歴史を調べ始めたのがきっかけでした。祖母が広島藩の重臣の家から高屋（東広島市）の割庄屋の家に嫁いでいました。そのことから50歳を過ぎてから幕末の東広島や戊辰戦争の動き、とりわけ「神機隊」という農民中心の部隊について精力的に研究。診療の合間を縫って、東北などにもしばしば調査旅行に出かけられました。

昭和61年、「木原適處と神機隊の人びと」という名著を出版されました。神機隊の創設者、木原秀三郎（適處）を中心に、幕末維新期の広島の様子を細部に至るまで解き明かし、戊辰戦争で散った人たちも含めて当時の広島人の群像を追った渾身の著書は、今に至るまで余人の追従を許さない歴史的な一冊です。あとがきには「ある意味では自分の墓碑であり、子供たちに残す遺書のつもりです」と書かれています。また、こうした縁から、浅野家ゆかりの人たちでつくる旧広島藩追遠会の理事、饒津神社総代なども務められました。

呉ロータリークラブに入会後は、週報においてロータリー史を含めた歴史分野をはじめ、さまざまなテーマで精力的に執筆されました。平成15年7月17日の週報では「我が人生の原風景 大戦末期の日記より」と題して昭和19年9月から20年4月にかけての日記の抜粋を公開。呉一中の友人が神風特攻隊で散華したことを伝える新聞を読んだ時の思いや、大阪空襲の惨状の記憶などを明かされました。長年にわたって週報に書き残された文章は戦争の時代への反省と、平和への願いに貫かれています。誕生日が終戦の日の8月15日であったことから、ご家庭で自らの誕生日を祝うことはなかったということです。

呉ロータリーではクラブ会報・雑誌委員長、プログラム委員長、社会奉仕委員長などを歴任され、歴史同好会の中心メンバーとしても私たちに導いていただきました。昨年度には5月と6月の2回にわたるレジェンドセミナーで「戦中派の想い～知っておいてほしいこと」と題して講師を務められ、幕末維新の秘話などを話されました。

【週報に残る言葉】

私の場合、特にこの国のあまりにも無責任で無関心な風潮、それが最も重くのしかかってくる。この国の二千年の歴史を通じて昭和・平成ほど大きい傷と屈辱を残した時代は他には見られない。戦争、敗戦、占領のこの時代、将来五十年、百年先の日本人が誇りを失わない国民として再生していたならこの時代のことを重く深い傷痕として受けとめざるを得ないだろう。あの時代を生きしきた我々がなさねばならなかったのはあの時代の事実をそのまま認識して、その歴史的総括をし、そこに至った動機と経過を追究して、それを後代に伝えていくという事だった筈である。

(2000年1月14日週報「正月は愛でたくもあり 愛でたくもなし」より)

(昭和十九年)十一月六日

世界は今や悲劇的大動乱の眞只中にある。怒濤は間近に迫りつつある。この世界史における「今」の意味をあくまでも追究し、そしてその「今」を生きていく「我」の存在の意味を確固たるものにした。「死」が避け得ない厳然たる現実であろうとそれは自己否定の「死」であってはならない。自己を愛し、信じ、ただ一路ひたむきに「我」に立って進みたい。その「死」をすらも生きていきたい。我らは勇者であらねばならないのだ。

(2003年7月17日週報「我が人生の原風景—大戦末期の日記より」より)

今回の旅行で思いもかけず五十年前の結婚の時の我々二人の誓いの言葉の原文自筆に眞近に接し得てまことに感慨深いものがありました。それは宮沢賢治の“雨ニモマケズ 風ニモマケズ…”の詩だったのです。

これで近く人生の幕がひかれることと思います。みなさま ありがとうございます。

(2007年6月21日週報「歴史研究同好会 みちのくの旅」より)

Q ローターリーへの入会のきっかけは

A 昭和52年2月第一例会に招かれて「芸州回天軍第一起神機隊」について卓話を致しました。当時、旧制中学の同級生4人をはじめ先輩、知人もたくさんいましたし、長老方から卓話の質問もいただき、同時に入会勧誘受けましたが、その頃はまだ地方史研究協議会の結成や県歯医会のある会員の除名反対訴訟など忙しく、10年後の昭和62年8月に入会。スポンサーは同級生の幡君と深見呉歯会長です。

Q 明治維新に興味を持たれたのは何故でしょうか。

A あの戦争を顕彰しようとする、最低限明治維新にまで遡らなくてははいけません。明治維新が原点なのです。そこに至る話は割愛しますが、特攻隊でも大正十年代生まれが圧倒的に多いのですが、神風特攻隊には中学の同級生がいます。彼らのためにもきっちり歴史の検証をしなければいけません。戦後ドイツでは内部から徹底的に検証、反省がなされました。日本ではまだなされていません。これは戦中派の残った私らの使命感、義務なのです。

(2007年8月23日週報「事務所訪問インタビュー 武田正視さんの巻」より)

ところで一業種一人というロータリーの制度は未だに村社会的な生き方を脱し得ない我々日本人にとってまことに有益な意義ある制度だと思ふ。会の運営の仕方によっては随分、目が開かれることにもなる。まさに十人十色、いろんな人格に接し、いろんな職業社会を知るということはこの国の眞の姿を知る事にもなるのではなからうか。

(2011年6月16日週報「フリーメイソンリーとロータリークラブ(3)」より)

あれだけの大きな犠牲を払い、そして敗戦・占領という屈辱の中から未だに眞の独立を果たしていないこの国の歴史的現実をどのように思っているのでしょうか。ロータリーの基本的精神は、自由・自主・自立です。また再びロータリーへの弾圧の時代がやって来るのでしょうか、この国の眞の独立は何時果たせるのでしょうか。それが今、私の最大の不安、負い目であり、痛みなのです。

(2013年10月17日週報「米寿を迎えて」より)

父の思い出

武田 明代

父が京都大学で口腔外科を修め、呉に帰ってきたのは昭和 35 年です。京都での生活は、謡曲仕舞を趣味として始め、旧山城国の旧跡に限らず畿内一円の仏像を訪ねるなど、とても充実していましたが、昭和 30 年代半ばになると安保闘争で学内が荒れ、学究活動に専念することが困難となり（自分も旗を降り、留置所を経験しましたので）、重ねて病弱な父から家族の為に帰郷を促す電報が度々届くようになりました。不本意な帰還、文字通りの都落ちでした。

蒲刈の病院で勤務の後、祖父の歯科医院で一緒に仕事を始めましたが、他所での生活が長かった父にとって、大戦前の自由闊達な空気はすで失せ、文化的な歴史も日輪の遺産以外に何も無く感じられた呉は、すでに忌むべき場所になっていました。私たち子ども四名に、高校卒業後は県外へ出て帰って来ないよう厳命したほどです。

子どもにとって父は難しい人でした。いつも何かに腹を立てていました。自分自身を含め、あらゆる物への鬱憤のせいでしょう。テレビは教養番組のみ、漫画、トランプ、歌謡曲はダメ。ジープも禁止でした。ひたすら本を沢山読まされました。職住一体でしたから、週末や夏休みは苦痛でした。

患者さんには尽くす人でした。最後までご老人の往診もしましたし、「年金生活で大変」と聞くと「今日はいいから」と窓口の支払いを免除。無保険の人も、外洋航路の外国人船員や旅回りの役者さんも来ました。お酒の匂いのする人は追い返し、診察室から罵声が聞こえることもしばしばでしたが、私達に対するより、ずっと優しく接していました。最後の入院当日も、予約の患者さんの診察をしていました。

仕事上の交際（歯科医師会）や一連の同窓会等はほとんど避け、かっこよく言うと「孤高の人」だった父が、趣味以上の事として郷土史の研究に没頭し始めたのは、50 代に入った頃でした。その途上で多くの方との交誼、そして呉を自身の終の棲家とするという決心から、次第に広島や呉への想いを強めていったのだと思います。

郷土維新史研究の集大成として「木原適處と神機隊の人びと」を出版の直後、以前からお誘いをいただいていた呉ロータリークラブに入会させていただきました。実直過ぎて世渡りが下手な父は、世間並みの付き合いを避け、ロータリーやライオンズには距離を置いておりました。初めてのお声がけから十年近く、呉一中のお仲間からの熱心なお誘いをお受けしたと聞いたのは、ちょうど末子の弟（長男真人）が北海道大学医学部卒業の目処が立った頃。彼が呉に帰って来た時に備えて、なるべく多くのお人とお付き合いしておかなければ、と考えての事だったと私達は思っています。

入会を決意するまでも慎重でしたが、入会後は、その理念を一生懸命理解しようと努め、活動にも積極的に参加していたようです。昨年 3 ヶ月半入院するまでは皆勤。入院中も例会参加やメイクアップの為に病院を抜け出そうとして看護師さんに叱られていました。プログラム委員のお役のときは、確かな方にきちんとした卓話をお願いしたいと腐心し、講師の送迎や資料作りを手伝ってくれるようにと依頼されました。父に頭を下げられたのは初めてのことです。毎週例会で（父にとっては）御馳走を頂き、時には母を伴って贅沢な旅行に出かける様子は、若い頃の父から見れば「変節」だったかもしれません。でも決して迎合ではなく、理解し納得し満足して活動していたと思います。「自分は老害だ」とよく言っていましたが、その言う時の顔は嬉しそうでした。父の話に真摯に耳を傾け、思いを返してくださる方がいらしたからでしょう。

私達が生活を異にしてからの30数年は、ちょうどロータリーでの活動期間にあたります。美味しいものを美味しいと言い、望むことをし、口に出し、時には歌謡曲を口ずさみ、「職業スポーツは卑しい！」と言っていたはずがカープの勝敗を気にするようになりました。私達にとっては大変身です。素直になりました。楽を得たのでしょうか。おかげさまで。本当にありがとうございます。

衣食住は質素、酒も飲まず外食もしない。歴史の調査旅行も木賃宿に泊まり、鈍行列車に乗る。車が嫌いでひたすら歩くのです。基礎体力は十分。何かに没頭するにはこれが必要。亡くなった後、放送大学の受講票とテストをいくつも見つけました。歴史、古文書、哲学。最後まで「勉強しなければならない、自分は在野の研究者だから」と最後まで言っていました。専門家ではないから勉強しなければと常に考えていたようです。購入する書籍の量が尋常ではなく、今でも家中に平積みしてあります。「まだ読んでないのが沢山ある」が口癖でした。心残りだったでしょう。今年は浅野家入城400年。9月15日には浅野侯が広島に入った折の大名行列が再現されました。旧広島藩追遠会の古参として、愛刀を帯びてこの行列の先頭に立ちたいと言っておりました。これも心残りだったでしょう。

「贅沢はしとらん」と言っていました。十分贅沢な生涯だったと思います。最後まで現役。私達は、羨ましく、誇らしく思っています。

感謝

【武田正視さんの略歴】

大正 15年 (1926)	8月15日 出生
昭和 2年 (1927)	父明人 呉宮原武田歯科医院開業
8年 (1933)	呉宮原尋常小学校入学
14年 (1939)	広島県立呉第一中学校 (現三津田高等学校) 入学
19年 (1944)	大阪歯科大学予科転入
22年 (1947)	大阪歯科大学予科転入
28年 (1953)	京都大学医学部口腔外科学科入局
32年 (1957)	ご結婚
33年 (1958)	長女ご出生
34年 (1959)	次女ご出生
35年 (1960)	国民健康保険直営蒲刈病院入局
37年 (1962)	呉宮原武田歯科医院入職
	三女ご出生
40年 (1965)	長男ご出生
55年 (1980)	神機隊戊辰戦役調査旅行開始
61年 (1986)	「木原適處と神機隊の人びと」出版
62年 (1987)	呉ロータリークラブ入会
平成 2～3年度 (1990～91)	クラブ週報・雑誌委員長
4～5年度 (1992～93)	プログラム委員長
6～7年度 (1994～95)	社会奉仕委員長
9～10年度 (1997～98)	出席委員長
12～13年度 (2000～01)	国際奉仕委員長
15～16年度 (2003～04)	雑誌・広報委員長
令和元年 (2019)	
8月3日	永眠
10月24日	呉ロータリークラブ追悼例会